

## 11 口蹄疫総合対策

【884(0)百万円】

### 対策のポイント

口蹄疫の発生に備えた危機管理体制を強化することで、海外からの侵入やまん延を防止し、畜産振興や畜産物の安定供給に寄与します。

### <背景/課題>

- ・平成22年4月、宮崎県で口蹄疫が10年ぶりに発生し、まん延防止のため、国内初のワクチン接種を行い、合計約30万頭もの殺処分を余儀なくされました。
- ・口蹄疫は伝播力が非常に強く、発生すると畜産物の安定供給に大きな影響を与えることから、今回の発生を踏まえ、発生の予防のためのリスク管理と発生に備えた危機管理体制を強化することが必要です。

### 政策目標

口蹄疫の侵入・まん延を防止するため、防疫・危機管理体制を強化

### <主な内容>

1. 周辺諸国での発生を踏まえた発生予防の取組強化等 20(0)百万円
  - (1) 空港等での水際検疫を強化するため、旅客等に対し、検疫情報等を周知徹底します。
  - (2) 口蹄疫ウイルスを媒介する可能性のあるシカ、イノシシ等の野生動物における口蹄疫の浸潤状況を調査し、野生動物に対する監視体制を強化します。
2. 万一の発生に備えた危機管理体制の強化 864(0)百万円
  - (1) 口蹄疫の疑わしい家畜を発見した獣医師が現場で迅速に診断できる簡易診断キットを実用化し、疑似患畜の早期発見の体制を整備します。
  - (2) 疑似患畜等の埋却以外の新たな処理方法として移動式のレンダーリング装置を開発し、口蹄疫発生時の動物検疫所等による支援体制を強化します。
  - (3) 口蹄疫発生時に発生農場周辺の農場を瞬時に把握し、その情報を国・都道府県で共有することが可能となるよう、防疫マップシステムを構築します。

補助率：定額等  
事業実施主体：国、都道府県、民間団体等

※ 防疫資材の備蓄や緊急支援体制の強化等、危機管理体制の強化に伴う費用については、平成22年度補正予算にて措置。

[お問い合わせ先：消費・安全局動物衛生課 (03-3502-5994(直))]

# 口蹄疫総合対策

【884(0)百万円】

【平成22年度補正予算にて措置 403百万円】

## 周辺諸国での発生を踏まえた発生予防の取組強化等

### ○ 水際対策の強化

- ・ 旅客等に対する防疫についての広報活動や口蹄疫に関する情報の周知徹底等
- ・ 国内線においても発生時には靴底消毒を実施

【空港等における水際検疫の強化 15(0)百万円】  
(※うち5百万円は平成22年度補正予算にて措置)

### ○ 野生動物に対する調査

- ・ シカやイノシシ等、口蹄疫に感受性のある野生動物の野外における口蹄疫の浸潤(感染)状況を調査

【野生動物サーベイランスの強化委託費 4(0)百万円】

## 万一の発生に備えた危機管理体制の強化

### ○ 簡易診断キットの開発

- ・ 各地の家畜保健衛生所が現地にて迅速かつ簡便に口蹄疫の感染を診断できるよう、国産の簡易診断キットを開発

【口蹄疫簡易診断キット実用化促進事業 37(0)百万円】

### ○ 迅速な支援体制の強化

- ・ 動物検疫所における防疫措置の際に必要な防疫資材を配備・備蓄し、発生時の人的・物的支援体制を強化

【動物検疫所の支援体制強化 398(0)百万円】  
(※平成22年度補正予算にて措置)

### ○ 疑似患畜等の新たな処分方法の確立

- ・ 埋却以外の新たな処分方法を確立するため、移動式レンダリング処理装置を開発し、緊急時の早期殺処分体制を確立

【移動式レンダリング装置実証費 128(0)百万円】

### ○ 口蹄疫防疫マップの開発

- ・ 発生時に瞬時に周辺農場の状況等を把握し、消毒ポイントの適確な配置等が可能となるシステムを開発

【口蹄疫防疫マップ開発委託費 19(0)百万円】

## 新たな検査法の開発や抗ウイルス薬の実用化【技術会議】

### ○ 口蹄疫対策技術の高度化

- ・ 早期に検出できる検査法等の開発や口蹄疫ウイルスの病原性解明
- ・ 抗口蹄疫ウイルス薬を用いた防疫措置の実用化に向けた有効性検証

【鳥インフルエンザ、BSE、口蹄疫等の効率的なリスク低減技術の開発のうち口蹄疫対策技術の高度化 654(587)百万円の内数】